

明けましておめでとうございます。

休養はとれたでしょうか。親しい人との時間を過ごせたでしょうか。

今年も、皆さんと意見を交わしながら、課題に挑んでいきます。よろしくお願いします。

さて、職員の皆さんの文章の要約が上手になったと感心しています。

私の話し方も下手だったのですが、以前は「こんな話ししたっけ？」みたいな要約もありました。最近はその場の思い付きで話したような長い話しを要点だけうまくまとめた文章を目にするようになりました。

一例として、直近の行政経営会議での町長挨拶の要約を紹介します。ほぼ自分の言いたいことが伝わっていると感じます。

令和3年度第7回（12月）

住民から私のところへ職員の説明に納得ができないという声が直接入ることがあるが、話をよく聞いてみると職員の意図が伝わっていないケースが多い気がする。

住民は、「決まりごとだから」というその場しのぎの回答では納得しないので、説明する際は、「こういう理由でこのように考えています」という「意図」を伝えることが大切である。職員は、相手の立場に立って考え、相手の気持ちを汲み取った上で、意図が伝わる説明を心がけてほしい。

令和3年度第6回（11月）

住民からの要望への対処の在り方について、要望は傾聴し、本質を確認しないとイケないが、全ての要望をかなえることが行政の仕事ではない。緊急性や必要性があるかを考え町全体として優先順位をつけるべき。声が大きい人や不必要な要望を優先することがあってはならない。「危険だから」という理由の要望があるが、そこで思考停止するのではなく、何がどう危険であり、それをどういう状態にしたいのか、そうすることで他の価値を損ねることが無いかをよく考えることが必要である。

また、議員など第三者が間に入るとニュアンスが変わる可能性があり、真のニーズを聴いていることにはならない。要望は必ず当事者と面談し、真に求めていることは何かをよく聴くこと。

議員からの要望は執行権の介入になりかねない。議員の本来の仕事は、条例や予算を議決によって決定することであり、行政の責任は、決められたルールに基づき事業を執行することである。

住民には、当事者として行政と一緒に問題解決するという姿勢で臨んでほしいと考えている。もし、住民が「直接要望しても行政が聞いてくれない」、「第三者を間に入れなければならない」と思っているのであれば、行政が信用されていない、行政は不公

平な存在だと思われているという証拠である。

職員には住民と行政がお互い納得できる関係性を築くことを目指してほしい。

令和3年第5回（9月）

リモートでの行政経営会議は今回が初となる。事前にテストを行ったが、途切れ途切れになってしまうなど発展途上であるため、いろいろと試しながら経験値を積んでいくことが大事だと考えている。

かねてから住民の皆さんにワークショップや懇談会に参加いただく際、わざわざ会場まで来ずに、実施する方法がないか考えていた。リモートは、「初対面の人の会議には向かない」、「不特定多数の会議には向かない」などといった意見もあるが、いろいろな場面でリモートを試しながら今後活用できるようになると良い。

令和3年第4回（8月）

新型コロナウイルスの感染者が全国的に増えており直に東浦町も増えて来るだろう。ワクチン接種については若い世代ほど接種希望者が少ない傾向であるが、感染者の増加に伴い、今後若者の接種希望も増えるのではないかと。

予算、実施計画を検討する時期になるが、全ての事業で縮小を前提に予算を考えるのではなく、将来を見据えた新しい事業も積極的に提案してほしい。

自分の考えを文章にまとめることは非常に大切なことです。

研修などの報告も、（面倒だけれども）簡潔かつ手を抜かないことを心掛けてください。研修で得た知見を組織の中で共有するだけでなく、自分自身の理解を深めることにもつながります。これには、人の考えを聴き取って自分なりの表現で再構成する力が必要です。人は1回話しを聞いただけで、本当の理解を得るのは難しいものです。自分なりに要点をまとめる努力が必要です。

決裁文書も、誰が見てもわかるように要点を簡潔に書いてください。以上を心掛けることによって、仕事の質は確実に向上すると思います。

2022年1月4日 東浦町長 神谷明彦